

北海道科学技術振興計画（素案）についての意見募集結果

(1) パブリックコメント（6名 11件）

区分	意見	意見に対する道の考え方	
札幌市	○ 12月19日に政府の地震調査委員会 が道東地域に巨大地震が発生するリスクを公 表しました。 「東日本大震災以降、自然災害リスクの低さ も優位性となっています。」という部分の記述 については、見直す必要があるのではないでし ょうか。	○ ご指摘を踏まえ、関連の記述を修正しま す。 「首都圏から遠距離で同時被災の可能性 が低いなどリスク分散に適していることも優位 性となっています。」	(A)
札幌市 豊平区	○ 第5章の重点化プロジェクトは、良い着 眼点だと思います。北海道の強みである「食・ 健康・医療」、特色である「環境・エネルギ ー」、無くてはならない「ものづくり」、「A I・I o T等利活用」の分野は今後ますます進展 していくでしょう。	○ ご意見は計画（素案）の趣旨にご賛同 いただく意見と理解いたします。	(C)
	○ セルフメディケーションやゲノム医療、スマー トコミュニティといった専門用語や難解な用語 が記載されているので、用語集を作成されたい。	○ 専門用語については、記号（*）を付 け、資料編の「用語集」において、説明するこ ととしました。	(A)
	○ 「食品工業の出荷額は全国2位」、「医 師などの第2次医療圏ごとの数が全国平均 を大きく下回る」といった文言が多用されてお り、出典を明示されたい。	○ 文中の数字等については、記号（**）を 付け、脚注に出典等の説明を書くこととしまし た。	(A)
標津郡 中標津 町	○ 科学技術の振興を通じて目指す北海道 の姿、「持続的な経済成長の実現」、「安 全・安心な生活基盤の創造」、「環境と調和 した持続可能な社会の実現」、10年後、 20年後の北海道は果たしてこういった姿に なっているのでしょうか。	○ 計画に掲げた目標の実現に向けて、道や 関係機関が力を合わせて、総合的かつ計画 的に取組を進めていきます。	(E)

札幌市 西区	○ 北海道科学技術賞・科学技術奨励賞は、医学、農業、水産、林業など多様な方が受賞されています。北海道には、こうした沢山の科学者がいる。研究費が少なくなっていると聞くと、若手研究者はちゃんと育てているか。ロケット打上など宇宙科学も期待できます。	○ 本道を主な拠点として本道の発展に寄与する科学技術上の優れた発明、研究等を行い、今後の活躍が期待される45歳未満の若手研究者を対象として、北海道科学技術奨励賞を授与するなど、優れた研究開発を表彰するほか、若手研究者が研究しやすい環境づくりを進めることとしています。 ○ 道内では国内有数の航空宇宙開発分野の研究開発・実験拠点が存在する中、道内のロケットベンチャーが昨年7月、民間企業単独では国内初となる宇宙空間を目指した小型ロケットを打ち上げ、大いに注目を集めたところであり、今後も研究の誘致につなげることが重要と考えています。	(C)
札幌市 北区	○ 北海道は、他の都府県にはない、食やエネルギー資源が満ちあふれており、こうした北海道の強みを活かした科学技術振興を行うべきだと思います。	○ 北海道が有する独自性や優位性を活かした研究開発などを推進していきます。	(B)
	○ I o Tや人工知能などの第4次産業革命が急激に進展しているなかで、こうした先進技術を北海道の産業にもたくさん取り入れ、農業や介護、運送業などの人手不足の解決につなげるべきだと思います。	○ 重点化プロジェクトの「A I・I o T等利活用」分野において、産学官等の関係者が連携して、先進技術の利活用を進めることにより、人口減少下における様々な課題解決に取り組んでいきます。	(B)
	○ せっかく大学などで研究も行っても、その成果が実用化されなければ意味が無いので、研究成果が企業などの商品化に生かされるような取組を行っていくべきだと思います。	○ 大学等の研究成果の社会への還元を進めるため、企業への移転を促し、研究成果の事業化・実用化を進めます。	(B)
	○ 広大な北海道では、I C Tの利活用は、遠隔医療などで威力を発揮できると思います。	○ 大学や拠点病院を中心とした地方病院等との遠隔医療システムの実証モデルの構築や実用化を進めます。	(B)
札幌市 北区	○ 毎年、夏に札幌駅地下街で、子どもたちを対象とした科学のイベントをやっており、たくさん子どもが工作づくりやイベントを楽しんでいる。科学に対するふれあいやものづくりの機会は、子どもたちにとって、夏休みの貴重な体験であり、今後もこうしたイベントを続けて欲しい。	○ 科学技術を支える人材の育成・確保は重要であると考えており、引き続き関係機関等との連携により、「サイエンスパークの開催」などの施策の推進に取り組んでいきます。	(B)

(2) 大学・関係機関等 (5団体 7件)

区分	意見	対応	
大学	○ 産学官連携について、「学会」「協会」等との連携促進も視野に入ると良い。	○ 本道における科学技術の振興に関する取組を推進するに当たっては、「産学官がその力を結集しながら研究開発等に取り組む」としており、ご意見の趣旨については、今後の施策の推進の際に参考とさせていただきます。	(C)
	○ フロンティア精神の再構築が望まれ、特に「ものづくり」においては、北海道ならではの、かつ人口減少に合わせた技術開発の構築が望まれる。特に子どもたちに対する「ものづくり」教育は大きな課題である。	○ 計画（素案）の第4章で、北海道全体として推進している研究開発分野として「ものづくり産業に関する分野」のほか、第6章の5（1）で「次世代の科学技術を担う人材の育成」を掲げており、計画（素案）の趣旨にご賛同いただく意見と理解いたします。	(B)
大学	○ 北海道には化学系企業の研究所や工場が少ないため、化学系企業の誘致を考えていただきたい。	○ 重点化プロジェクトにおいて、「ライフサイエンスや先端医療の分野における研究開発を推進するとともに、関連企業や研究機関の誘致を進め」ることとしており、計画（素案）の趣旨にご賛同いただく意見と理解いたします。	(B)
関係団体等	○ 「産学官金等の行動の推進」について、大学・高専のある都市では道や市町村等の行政の一部を学生が研究を兼ねた体験をする仕組みをそれぞれ歩み寄って作る。若い学生が技術や福祉等の現場を経験し、それが大学の研究にフィードバックする展開につながっていくのが理想。	○ 科学技術を支える人材の育成・確保は重要であると考えており、引き続き関係機関等との連携によりインターンシップ等の施策の推進に取り組んでいきます。 ○ また、大学・短大・高専等との連携協定などによる取組を進めていきます。	(C)
	○ 「地域イノベーションの創出」について、まったく新規の技術にとらわれないので、すでに創業している案件のうちで、大化けする、あるいは有望な事業を後押しするのも地域イノベーションとしてはいかがか。	○ 主にベンチャー支援の取組についての記載がされていますが、創業済の企業についても産学官金連携による技術支援などを行い、地域イノベーションの創出に取り組んでいきます。	(B)

関係団体等	<p>○ 科学技術の振興には、次世代（子ども）の育成が不可欠だと思うが、本計画には簡潔にしか書かれていない。</p> <p>教育大との連携も考えるべきである。</p>	<p>○ 科学技術を支える人材の育成・確保は重要であると考えており、引き続き大学や関係機関等との連携により施策の推進に取り組んでいきます。</p> <p>なお、教育大との連携については、今後の参考とさせていただきます。</p>	(B)
関係団体等	<p>○ 科学技術の進歩が早く日常生活においてもA I 活用技術が導入されて来ている。今回策定された計画(素案)については充分検討され内容は良く理解できる。特に第7章、道内6地域の取り組みはステークホルダーとの関係が表現され、これまでとこれからの取り組み内容が比較でき、地域の特色が理解しやすい。</p> <p>今後の取り組み内容に沿った形で実行できる詳細な計画策定推進に向け、産学交流プラザ「創造」参加各社において該当する事案毎に取り組む。</p>	<p>○ ご意見は、計画（素案）の趣旨にご賛同いただく意見と理解いたします。</p>	(B)

※「意見に対する道の考え方」のA～Eの区分は次のとおりです。

A	意見を受けて素案を修正したもの
B	素案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	素案を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの
D	案に取り入れなかったもの
E	素案の内容についての質問等